

柿園管理情報 第6号

令和7年8月20日
城端果樹協会
砺波農林振興センター

1 概況

8月19日現在（満開83日後）の果実横径は53.5mmで、前年比96%、平年比95%となっています。病虫害対策について、炭そ病が見られた場合、速やかに被害部位は除去し、園外に持ち出して適切に処分してください。また、今後、カメムシ類の被害が懸念されますので、園地をよく観察し、丁寧な薬剤散布に努めてください。

2 防除について

- ・9月は炭そ病の重点防除期となります。下記を参考に防除を実施してください。
- ・9月以降、カイガラムシ類の発生が目立つ場合、コルト顆粒水和剤（3,000倍 収穫前日まで 年間3回以内）を散布して下さい。



写真1 炭そ病被害果（左）とカメムシ類による被害果（中央、右）

- ・薬剤は散布ムラの無いよう、ていねいに十分量を散布（※）してください。

※：農薬散布時は周囲の他作物や住宅等への飛散防止に努めてください。特に通学路に面した園地では、登下校時の時間帯等、十分注意してください。

：薬害の出やすい高温時を避け、朝や夕方の涼しい時間帯に散布してください。

散布時期	対象病虫害	散布薬剤	使用倍率	100リットル 当り薬量	10a当り 散布量
9月4日頃 (重点防除時期)	炭そ病	インダーフロアブル	5,000倍	20mL	400 ^{リットル}
9月19日頃	炭そ病 カメムシ類	オーソサイド水和剤80 キラップフロアブル	1,000倍 2,000倍	100g 50mL	400 ^{リットル}
10月4日頃	炭そ病	ミギワ20フロアブル	4,000倍	25mL	400 ^{リットル}
10月19日頃	炭そ病	トップジンM水和剤	1,000倍	100g	400 ^{リットル}

- ・畦畔柿では、トップジンM水和剤（1,000倍 収穫前日まで 年間6回以内）を稲刈り後（9月中旬頃）および10月19日頃に散布してください。



※近年、管理不足園地からの炭そ病の感染拡大が見られます。

写真2 炭そ病が多発し落果した園地（左）と被害果（右）

**☆病虫害防除は地域ぐるみの対策が大切です。
産地・地域全体で協力して防除しましょう。**

3 台風等の強風対策について

今後、台風被害の発生しやすい時期となります。柿園での被害を軽減するため、台風の接近前および通過後に、以下の点に留意して対策を実施してください。

（１）事前点検・通過後点検

- ア 支柱・結束縄の点検：若木等の支柱や結束縄の点検・補強
- イ 防風施設の点検：支柱やネット等の点検・補強
- ウ 排水路等の点検：明きよ、暗きよ等排水路の点検・手直し

（２）被害が発生した場合の事後対策

- ア 傷口の保護：枝折れ等の傷口はきれいに切り直し、トップジンMペースト（使用回数：年間３回以内）等を塗布する。
- イ 防風施設の点検：倒伏した樹の支柱入れ、根回りのかん水を実施する。根の損傷はきれいに切り直し、トップジンMペースト等を塗布する。
- ウ 炭そ病等の感染防止：長時間の強風や大雨があった場合、すみやか（１～２日後）にフリントフロアブル 25（3,000 倍 収穫前日まで、年間３回以内）を散布する。

【注意事項】

- ・ 強風が吹いている間や、河川・用水が増水している間は、大変危険なので決して園地の状況等を見に行かないでください。
- ・ 落果果実のうち、炭そ病り病果は、放置すると新たな感染源となるので、園地外に持ち出して適切に処分してください。

- 農作業に当たっては、こまめに水分を補給するなど、熱中症に留意してください。
- 脚立や農業機械等での作業時の安全対策を徹底し、農作業事故発生防止に十分努めてください。